

2月卓話 「Yokosuka 1953」が 教えてくれたもの!!

戦後の混乱期の1947年横須賀で外国人の父と日本人の母（信子）の間に生まれたバーバラ・マウントキャッスル（日本名：木川洋子）は当時の過酷な環境下で育ち、5歳の時母とも別れて養子縁組で渡米。それから日本に帰ることも、母に会う事も無く66年が経ちました。この歴史に翻弄され、数奇な運命を辿った女性の悲壮な人生を映像作家で和歌山大学教授の木川剛志監督は自分のSNSに届いたアメリカからの1通のメッセージで知る事となります。卓話を聞きながらこの女性と同時代に生まれた私は、風化してしまった歴史を丁寧に紐解いてみたいとの衝動にかられました。

1945年8月14日に、無条件降伏した日本は7年間アメリカ主力の連合軍の占領下に置かれます。インフレによる生活苦、配給制となった深刻な食糧難。国民全体が飢えを凌ぐすべのない状況の中で特に戦災孤児、混血児の方たち、残留孤児の方々の想像を絶する辛さを感じました。「女性が女性らしく生きられなかった時代」を生き抜いた母娘の66年の時を経て、そこに光を当て母親探しの旅に惜しみなく支援しつつ、多くの人達に敗戦後の日本の現状を伝え様とドキュメンタリー映画に仕立てた木川監督の勇気と決断に敬意を表します。

今、私達は豊かな時代に生かされて生きていますが、先人達の苦勞と努力が礎となっている事を忘れてはいけないと認識した次第です。

“事実は小説よりも奇なり” 劇場でぜひ鑑賞したいと思います。

（春風 富美子 記）